

せいけん
詩集

第三十一篇

作：近藤せいけん

「で あ出会い」

ひと人は いっしょう一生でどのくらい ひと人と であ出合いを

かさ重ねるのだろうか

じぶん自分が せいちょう成長するために ひつよう必要な いいいい であ出合い

あのときあの時 であ出合いがなかったら よかつたのにとよかったのにと いういう

こうかい後悔の であ出合い さまざまさまざまな 出合い出合いを かさ重ねながら

ひと人は いき生きて ゆくゆく

「じぶん自分という そんざい存在が、ほか他の そんざい存在と」たが互いに えいきやう影響しあつて

だんだんだんだんと じんせい人生の ふか深みを ま増して ゆくゆく

「どうせならどうせなら いいいい 出合い出合いをしたほうが たの楽しいよ」

「そと外に出て いいかないと ひと人に あ会えないよ」

出合い出合いという じんせい人生の たから宝を

「きみ君も つか掴んだら どうどう」